



10・11月
合併号

ひだまり



今月のエッセー

秋のくしゃみに「異常」の予感

今年秋は秋のお彼岸になっても彼岸花が咲かず、十月に入っても暑い日が続きました。毎年「今年は異常気象」と言われていますが、一体普通の気象というのは何なのでしょう。「異常が普通」になってきているようです。

私は秋が好きです。夏のような強烈な暑さがなく、冬の震える寒さもありません。春の気温は穏やかですが、私は花粉症です。スギ花粉が飛び交う春は四六時中くしゃみをしています。ある意味では一番辛い季節かもしれません。秋は暑くもなく、寒くもなく、花粉症もない、快適な季節なのです。

編集後記

職場からの帰り道、いつもとは違う鼻を突くにおいがします。このにおいの原因を究明すべく、周囲を見渡し、目線を下に向けると、地面が所々黄色くなっていました。これが答えでした。そうです、銀杏です。

私の実家の庭に大きな銀杏の木があったこともあり、毎年秋になれば、大量の銀杏が降ってきます。そのため、幼少期から「銀杏」と「秋」はセットでした。兄弟でくさい銀杏を投げ合ったことや、その銀杏を食べられると聞いて驚愕したことを懐かしく思い出されます。

「銀杏」のにおいから、秋の思い出を回想できました。みなさんにとって「銀杏」は何ですか？

◆菊地志門

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門

〒一〇五・八五四四

東京都港区芝二・五・二曹洞宗宗務庁内

☎〇三・三四五四・六八四四

しかし、今年の秋は異常事態が起きています。くしゃみが出るのです。目がしばしばするのです。もしかしたら風邪かもしれないと思って薬を飲んでみたのですが、どうやら違うようです。よくよく考えてみれば、風邪でくしゃみは出ても目がしばしばすることはありません。どうということなのだろうか調べてみたところ、どうやら花粉症は春だけのものではないようです。夏から秋にかけてブタクサやヨモギの花粉が飛ぶそうですが、これが原因の花粉症もあるようです。おそらくこれにかかったのでしょう。

「おお花粉症よ！私から秋も奪わないでください！」そう願ってもくしゃみが止まる訳ではありません。

ブワックション！

年を重ねる度にくしゃみの音も大きくなっていく気がします。

予想外の花粉症に悩むこの秋。この異常事態も毎年のことになっていくのでしょうか。「異常が普通」になるのは氣候だけにしてもらいたいものです。

◆久松彰彦

法のお話



一年度
丹羽 隆浩

尽くす先に見えるもの

私が修行時代から大切にしている、道元禪師の言葉があります。

利行は一法なり

あまねく自他を利するなり。

『正法眼蔵 菩提薩埵四摂法』

利行とは人のために尽くすこと。それは人のためでもあり、自分のためでもある、という意味です。

私は永平寺で修行生活を始める際に、目標を立てました。それは仲間を大切にしよう、困っている仲間がいたら助け合おうというものでした。

修行生活が始まり、大変そうにして

いる仲間を見つけると「私も手伝うよ」と積極的に手を差し伸べました。仲間からは「ありがとう」と声をかけられ、人のために尽くすつてとても清々しいことだと感じていました。

しかし次第に、私の気遣いが一方的になつていくことに気が付いたのです。「なぜ私が困っている時は手伝ってくれないのだろう」「そっちが手伝ってくれないならもう何もしてやらない。」

自分中心の考えとイライラで頭がいっぱいになり、さらに自分は見返りを食べるように求める人間だったのかと驚き、ショックを受けました。

そんな私をどうすれば抑えられるのかと考えましたが、よい方法は見つからなまま月日は流れていきます。

ある日、老僧の付き人として、参禅会に来ていた一般の人たちとの茶話会に参加する機会をいただきました。その茶話会で老僧が、参禅者に優しく語りかけられました。

「人は人に尽くしても尽くし過ぎるということはない」「自分が腹を立てたりする時は、自分の思い通りにならないからで

あって人のせいではない。そんな時はまず自分を見つめなさい。」

私はその言葉を聞いて大きな衝撃を受けました。なぜなら私はずっと抱えていた悩みへの答えだったからです。

問題は全て自分の中にあつたのです。見返りを求めず、ただ尽くす。一方通行でよかつたのです。そこに腹を据えていればイライラすることもありません。

またこのような言葉もおっしゃってありがとうございました。

「自分の修行、と言うが決して自分のためにする様な修行はない。人のためになることをする。自分のためのことなんてほんの少しでいい。」と。

利行は一法なり

あまねく自他を利するなり。

人に尽くしているようで、結局のところは食りを超えていく自分の修行。人のためだけでなく、自分のためになつていくことに気づかされました。

この日から何年も経ちますが、今でも見返りを求めていると感じる時もあります。その度にこの言葉を思い出し腹を据えて尽くしていこうと思ひ直すのです。

秦 慧洲の 小啾



(C)1999 いいひさいち・畑事務所・Studio Ghibli・NHD

秋が深まり、なんとなく物思いにふけることが多くなりました。皆さんは何をしてこの秋を過ごしていますか？私は最近映画を観て秋を楽しんでいます。元々は父親が映画好きだったことから、休日になるとよく有楽町の映画館に連れて行かれました。とはいっても好きな映画を観られるわけではなく、子どもの私にとっては少し難しい映画ばかりでした。それでも、映画鑑賞後に決まって食べるクリームあんみつをととても楽しみにしていました。

映画の魅力は何かと考えると、やはり圧倒的な没入感だと私は思います。全く異なる世界に入り込み、登場人物と同じ目線に立つてその世界を生きる。そして「あー分かる、この気持ち」、「自分だったらこうするのに」などと、つい感情移入してしまいます。見終わった後もその映画についてあれこれ考え、いろんな想像を膨らませる。そんな贅沢な時間が私はとても好きです。

この頃は忙しいので、映画館ではなく自宅でレンタルした映画を楽しんでいます。最近観た中で特に面白かったのが『となりの山田くん』というアニメ映画。全て手書き風のイラストでありながら、きめ細やかな動きを出すために、なんと十七万枚も作画された超大作。ハリウッド映画のような劇的な出来事を描くわけでもなく、ただ家族の日常を描いた珍しい構成となっていますが、誰かと一緒にいることの温もりを感じさせる素晴らしい映画です。

映画には人生にとって大切なヒントが隠れていると私は思います。映画の中で描かれる人の喜びや苦悩、悲しみ、怒りといった心を感じ取り、自分の心に照らし合わせる。すると、映画の登場人物が自分と少しも変わらないことに気づき、実は自分自身もこの人生という一つの映画の主人公なのだと思えるのです。この人生をどう演じていくかは自分自身しかできません。

去年、私にも子どもが生まれました。まだ幼いので映画館に連れては行けません。いつかは子どもと一緒に映画館へ行き、クリームあんみつと一緒に食べたいと思います。

